

学長インタビュー

第1回

石川百代学長 × Liss

2016年4月から嘉悦大学の学長に就任された石川百代氏に、図書館学生スタッフ・Lissが石川学長の学生時代から社長時代、嘉悦生へのメッセージなど様々なことをインタビューさせていただきました！全3回にわたるインタビューの第1回は、石川学長の短大時代のお話とおすすめの本についてのお話です。

インタビュアー：田邊航平 / 記事作成：坂本翔 / 撮影：小島明美

石川学長の短大時代は勉強漬けの日々！ 2年間で128単位を取得！

学生 学長は嘉悦の卒業生ということですが、どんな学校生活でしたか？

石川学長 今は全然違います。大体、場所が違うのよね。キャンパスが花小金井に移ったのは30年くらい前なのかしらね。私が卒業したのは40年前の話ですから、その時はこの大学がどこにあったのかというと、千代田区富士見町という所であって、飯田橋駅から徒歩6分くらいかな。坂を登って、法政大学の隣で、いい場所にありました。私が通っていたのは短大なんですけれども、併設されていた中高の奥に短大があつて。今はみんなベンチに座って携帯電話とかやってるじゃない？そういうスペースはなかった。嘉悦ホールのような300人くらい入れる所があつて、そこで「経済学入門」などの授業を受けていたの。1学年500人くらい居たのよね。ただ学校に来て授業を受けて帰り、その割に教職課程も取っていたので、朝早くから17時くらいまで1日中授業を受けていて、取った単位を見たら2年で128単位も取っていたの。

学生 おー！！すごい！

石川学長 驚きでしたよ、自分でも。月曜から金曜までほとんど5時間まで。よくやったなーって。自分を追いこむのが好きなのかもね。あるいは楽しみがなかったのかもね。その当時はみんな真面目に学校に来てたわけよね。それはなぜなのか？そのモチベーションがどこにあったのか分かりませんね。

一同 (笑)

石川学長 どうですか？モチベーションないですよ？何かただ勉強してましたよね？

職員 うーん。そうですね。

石川学長 そうそう、短大生ってすごく真面目なの。オシャレなんかしないし、お化粧なんてしないし。

学生 すごいですね。

石川学長 昔の子は根性あつたね。今の人も根底に根性があると思うけれど、それを発揮する場がないと思う。



学長プロフィール

昭和47年3月、日本女子経済短期大学*卒業後、米国で学位(MBA)や資格(CPA)を取得。国内外の外資系企業での勤務の後、平成5年1月、日本ジュース・ターミナル株式会社入社。同社代表取締役社長を経て、平成28年4月、嘉悦大学学長に就任。 ※ 現在の嘉悦大学

学生 たしかにそう思います。

石川学長 そういえば、私の兄は3つ上で6大学に通っていたのですが、当時麻雀が流行っていて、「今夜は帰りが遅い」というと麻雀をやって帰ってきた。

学生 (笑)

石川学長 母親が、兄が帰ってきたかどうか心配して玄関に行って靴を見るのね。部屋で寝ているのか、居ないのかわからないの。夜中に帰ってきて寝ちやうから。

学生 お兄さんとは会わなかった？

石川学長 もう大学時代は全然です。2年くらい顔を合わせていなかったのよね。向こうは謳歌して。

職員 趣味に没頭するんですね。ビリヤードとか流行ってましたよね？

石川学長 それが当時の流行り。

職員 麻雀とパチンコでしたね。

石川学長 麻雀が特にすごかったね。あと、兄はボーリングもやっていました。

兄の財布からでてきたのはボーリング場の優待カード。

一同（笑）

石川学長 中高まで勉強して、それから大学に入るわけよね。東京6大学に行くにはね。それで、親もちゃんと勉強してるのかな、と思ったら近所の方から「夜学に行ってるんですか？」なんて聞かれて。私なんか真面目に朝から晩まで学校に通っていたのに。でも、この差って結構ありましたね。



おすすめの本は「カラマーゾフの兄弟」

学生 学生のうちに読んでおいたほうがいい本はなんですか？

石川学長 学生のうちにというか、一番感動した本でもいいかな？そしたら、「カラマーゾフの兄弟」。彼らほど考えさせる兄弟はいないと思っています。

学生 具体的な内容は？

石川学長 例えば宗教のこと、家族の問題、それから愛とはなにか、神とは何か、そういうことがすべて含まれているの。大学生が読んだ方が良い本って、人生についての本よね。「カラマーゾフの兄弟」に関して言えば、一生で出会えたことがうれしいって本よね。大学時代に読んで良かった一冊って思う本は、色々ありますが…うん。例えば、大学時代は非常に忙しくて、読むといつてもテキストとかそんなのばかりじゃない？

学生 たしかにそうですね。

石川学長 うん。それ以外の本を読む時間ってないんじゃない？

学生 そうですね。忙しかったり。

石川学長 例えば、研究会やゼミに行くとか「こういう本を読みなさい」って言われて読む。あとは、たまに映画とか見て、そしたらその映画の原作を読む。

石川学長のおすすめ本



「カラマーゾフの兄弟」
ドストエフスキー 岩波書店
1階入口展示棚 983 || DF || 1~4



「下町ロケット」
池井戸潤 小学館
1階入口展示棚 913.6 || U || 1

そういうことはない？本屋大賞とか、あういう本もいいと思うんですね。例えば、TVドラマの「下町ロケット」を見たんですが、あれが面白いってというのは、やっぱり制作所っていう中小企業が大企業を相手にものすごい大奮闘するんです。読みました？あるいはTVドラマ見ました？

学生 中小企業が名の通った大企業に対抗していく感じが気になりました。

石川学長 「半沢直樹」っていうTVドラマもあつたんですけども、100何だっけ？倍返し？

学生 10倍返しとか。100倍返しとか。

石川学長 あつたわよね。TVドラマでは「半沢直樹」であつて、本のタイトルは違うんですよ。「俺たち…」

学生 バブル（「オレたちバブル入行組」）。

石川学長 図書館にもあると思うけど、この本の著者の池井戸潤さんは元々大手銀行に勤めていた方なんです。その時の色々な経験があつて、それを元に小説を書かれているわけですけど、あの方の本を読むとビジネスの実態というのかしら、みんながお勤めした時にこういう企業があるんだとか、銀行ってこんな貸ししぶりをするのかとかね。そういう世の中の色々な課題がリアルに伝わってくるわけよね。だから、池井戸潤さんの経済小説、あるいは城山三郎さんという方もいるんだけど、そういう社会の小説は嘉悦のような実学を重視している大学生には、とてもためになるというか参考になる本かなと思いますね。

インタビューを終えて

初めて石川学長にお会いしましたが、気さくな方で安心しました。

石川学長が短大時代に128単位を2年で取得されたお話を聞いて、上に立つ方はさすがに学生の時から努力が凄いと感じました。嘉悦の卒業生ということもあり、嘉悦に対する熱い思いを感じる事ができ、貴重な時間となりました。【坂本】

発行日：2016年7月20日

発行：嘉悦大学情報メディアセンター Liss(図書館学生スタッフ)